

LME銅・今月も中国の燃料炭価格抑制策の動向などが左右か

【四圍より続く】

【住宅着工戸数】

九月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比四・三％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比二・二％の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万三、一七八戸。前年同月比四・三％増、七カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、〇二二千㎡。前年同月比三・二％増、六カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八四万五千戸。前月比二・二％減、二カ月連続の減少。

【伸銅品生産】

日本伸銅協会が公表した二〇二一年九月伸銅品生産動向速報値によると、九月伸銅品生産量は前月比一七・五％増加の六万四、六一〇トン、前年同月比二八・七％増加した。またコロナ前二〇一九年同月と比較しても五・三％増加した。好調を継続している。

品種別では、銅糸は前年比二二カ月連続のプラス。九月としては、二〇〇八年に次ぐ二番目の高い値。引き続き車載、デジタル家電用の半導体向けが好調である。自動車端子向けも、自動車生産挽回に向けて、在庫積み増しの生産が続いている。自動車生産台数以上に自動車端子向け銅糸生産が伸びている。

黄銅棒は同比八カ月連続プラス。二〇一八年の同月実績を僅かに上回った。住宅設備機器関連が振やかな回復続く。リフォーム関連、タッチレス水栓向け需要好調続く。自動車向け需要も堅調。

【電線出荷】

日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、前年比〇・三％増の五万二、一〇〇t。このうち国内〇・二％減、輸出が一七・六％増。

【輸出】

電気銅輸出が四・一％減の四万九、三五一t。銅スクラップが一〇・五％減の二万七、四六〇t。

【輸入】

電気銅が一〇・一％増の五五〇t。スクラップが四・六％減の九四五t。

【目録】

・九月の自動車生産が四九・七％減。十月国内販売台数が前年比三〇・二％減。前月に続く生産、販売共に急減少！半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとの事。今後に注視。

・九月伸銅品生産量は前年同月比一八・七％増加した。前月に続き増！またコロナ前二〇一九年同月と比較しても五・三％増加し

た。好調を継続している。

自動車生産の遅れの影響がでないか今後に注目。

・日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、前年比〇・三％増の五万二、一〇〇t。このうち国内〇・二％減、輸出が一七・六％増。

輸出は増加率が大幅増加！国内が回復するか注視。

・銅輸出は、電気銅、スクラップともに内需旺盛に伴い減少。

・銅輸入は、電気銅が内需旺盛から増加、スクラップは世界的な原料不足から減少。

【スクラップ要況予想】

前月に続き流通(二次廃品)在庫は銅建値が一〇四万円から一時二三四万円まで急騰した(翌日二二五万円まで下落)ことから出物が無く在庫薄。

需要面に関して、いまの所、前月に続き中国の部品関連の遅れからの自動車生産の大幅減少傾向があるが、挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問題も多く、定期で入らないメーカーでは高値買いの傾向が今月も続く。

【LME・為替予想】

今月は

① 燃料炭価格抑制策の動向

② 中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題

に左右される

① に関しては、中国雲南省全体は電解アルミニウム業界への実施中及び実施予定の優遇電気料金政策を取り消すなど、強硬措置を続けており、工業用金属の需要減退懸念は引き続き今月も行われるのではないかと。

② に関しては

ドル建ての利払いを行うなど立て直す意思はあるようだが、中国国家统计局が発表した十月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は四九・二と市場予想(四九・七)に反して前月の四九・六から低下した。五〇を二カ月連続で下回った。

ことなどから、予断はゆるさぬ状況。

これらを踏まえた十一月の銅価格は八、五〇〇〜一萬〇、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇〇円〜一一五円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては九八万〜一一九万円程度と予測している。